

## 編集室より

◇来年度の農林省予算原案がきまったが、総額3696億円余で本年度より1割の増額となっている。このうち畜産関係は138億746万2千円で26%の増額となっているが要求額からすると50億円も下回っている。国のお台所も相当に苦しいことはわかるが、ジリ貧農業の建直し予算にはまだまだ力の入れ方が足りない。農業基本法に基く、“儲かる農業”への新しい村づくり、農業構造改善事業も、3年目だが事業の遅れが目立ち、実態はかんばしいとはいえないようである。計画が“天下りの”で農村の実情に合わないこと、農業の未来像の確立されぬままになっていること、協業経営に対する見方の甘さ等、中途半端な施策が末端では大きな矛盾となって却って農家を困迷におちいらしている現実はみのがすことが出来ない。

◇現実の農家が直面している問題は管理技術のことよりも、畜産物の流通問題であり、経営資金の調達問題が大きな比重を占めている。鶏卵の大暴落が昨年話題であったが、3年周期の卵価安の翌年は鶏羽数が減るという常識が36年の卵価安の翌年37年から卵価安でも羽数が減らないという傾向が現われている、と統計は語っている。37年あたりから、養鶏経営の内部に構造の変化が起っていることが推測出来る。昨年の卵価安の翌年、今年の羽数が果して減るか？そして今秋には高卵価が期待出来るか。養鶏だけに限らず各部門共通の課題は流通機構の改善に政策的テコ入がなされるかということであろう。一方では畜産近代化に必要な資金調達にどういう手を講じるか。現在政府は施設資金の貸出はしているが、事業の運転資金は自前で賄うことになっている。種をまいてから水やらずの政策が現実である。

◇こうした現実の中で経営をする農家は余程の覚悟が必要であろう。農業近代化へのいざない、そして農林金融の問題を解説して今月号に載せた。不況の荒波をいかにのり切るか。農家も団結力を強くして要求を主張する組織が必要である

### 本誌の予約申込要領

誌代 一部 50円（送料共）

年間予約600円（送料共）

但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部50円のサービス価格です。

### 集団申込の特典

10部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を45円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を40円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

### 申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。

集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

岡山畜産便り1965.02

申込先

岡山市桑田町1丁目2番地

社団法人岡山県畜産会管理普及課

(電話) 岡山22-8575番

(口座番号) 岡山8575番